

# 立教大学 社会情報教育研究センター 2013年度 活動報告

## 【目次】

1. 事業活動日誌
2. 公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績
  - 1) 公開講演会
  - 2) オンデマンド型講座
  - 3) CSI 統計分析・活用セミナー
  - 4) 統計検定対策セミナー
  - 5) CSI 統計研究会
  - 6) CSI 社会調査フォーラム
  - 7) 共催・後援セミナー等
  - 8) 外部機関からの依頼講演・講義
3. 資格支援事業
  - 1) 社会調査士資格支援
  - 2) 統計検定支援
4. 教育支援事業
  - 1) 正課提供科目
  - 2) 統計学習コンテンツ・ソフトウェア
  - 3) 大学間連携共同教育推進事業
5. 研究支援事業
  - 1) 調査分析協力
  - 2) 調査研究コンサルティング
  - 3) 社会調査データアーカイブRUDA
  - 4) 対外連携活動
6. 出版物等
7. 人事
8. 組織図
9. メンバー一覧および各種部会

## 1. 事業活動日誌

以下、2013年4月から2014年3月までにCSIが事業活動を実施した内容を時系列に掲載する。

月	日	内容
4月	1	社会調査士パンフレットガイダンス 関係学部へ配布
	2	社会調査士パンフレットガイダンス 関係学部へ配布
	12	第1回社会調査部会 定例会議
	18	第1回政府統計部会 定例会議
	22	第1回統計教育部会 定例会議
	25	第1回センター運営会議
	30	社会調査士実習科目概要報告書・成果物・履修要項発送
5月	1～2	愛媛県東温市調査出張
	8	第2回社会調査部会 定例会議
		CSI統計分析セミナー:IAコース・SPSSの基礎
	9	第1回センター連絡会議
	13	CSI統計分析セミナー:NAコース・Rコマンドの基礎(1)
		第2回統計教育部会 定例会議
	14	招待講演①
	16	第2回政府統計部会 定例会議
	20	CSI統計活用セミナー:Aコース・G-Censusセミナー1
	22	CSI統計分析セミナー:IBコース・クロス集計表をマスター
	23	第2回センター運営会議
		調査研究コンサルティング 対応
	27	CSI統計活用セミナー:Bコース・G-Censusセミナー2
	29	調査研究コンサルティング 対応
6月	1	大学間連携事業:カリキュラム策定委員会
		社会調査士(見込み)資格申請の前期申請受付(～19日)
	3	第3回統計教育部会 定例会議
		招待講演②
	4	社会調査士(見込み)資格の前期提出申請(～21日)
	5	CSI統計分析セミナー:ICコース・相関係数をマスターする
	6	第3回政府統計部会 定例会議
		CSI統計活用セミナー:Cコース・統計学習コンテンツ紹介
		第1回政府統計部会 統計学勉強会
	10	CSI統計分析セミナー:NBコース・Rコマンドの基礎(2)
	12	大学間連携事業:公開FD講演会
		第3回社会調査部会 定例会議
	13	第2回政府統計部会 統計学勉強会
		調査研究コンサルティング 対応
	14	大学間連携事業:運営委員会
	17	第4回統計教育部会 定例会議
		CSI統計活用セミナー:Dコース・将来人口を推計する(POCO)
	19	CSI統計分析セミナー:IDコース・Rコマンドの基礎(1)

	20	調査研究コンサルティング 対応
		第4回政府統計部会 定例会議
		第3回政府統計部会 統計学勉強会
	24	第5回統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング 対応
	27	第4回政府統計部会 統計学勉強会
		CSI 統計活用セミナー:E コース・SPSS ミクロ統計分析入門
		調査研究コンサルティング 対応
7月	3	日本と世界の統計史:講演録画
		CSI 統計分析セミナー:IE コース・R コマンドの基礎(2)
	4	第3回センター運営会議
		第5回政府統計部会 定例会議
		第5回政府統計部会 統計学勉強会
	8	第6回統計教育部会 定例会議
		第1回復興支援ネットワーク会議(菊地教授)
	9	統計検定対策ガイダンス:池袋キャンパス
	10	第6回 CSI 統計研究会
		統計検定対策ガイダンス:新座キャンパス
		第4回社会調査部会 定例会議
	11	第2回センター連絡会議
		松山市地域経済課:委託事業会議
		第5回政府統計部会 定例会議
	15	CSI 統計分析セミナー:NC コース・R の基礎
	17	CSI 統計分析セミナー:IE コース・R の基礎
	18	第6回政府統計部会 統計学勉強会
	22	minitub 社統計ソフト導入に関する打ち合わせ(統計教育部会)
	24	日本と世界の統計史:講演録画
	25	第6回政府統計部会 定例会議
	26	第7回 CSI 統計研究会
	27	大学間連携事業:運営委員会議
	31	高校生向け統計教育セミナー:JINSE 高大連携委員との共同開催
8月	6	第7回政府統計部会 定例会議
	12~14	松山市委託事業に関わる調査出張(政府統計部会)
	21~25	IASE サテライト・IAOS 海外学会発表(大学間連携事業メンバー)
9月	2	大学間連携事業:FD 講演会
	4	大学間連携事業:日本行動計量学会
	5	JESSICA UTTS 教授(UC Irvine) よりオンデマンド教材作成の監修および助言
	8	大学間連携事業:FD 講演会
		大学間連携事業:運営委員会
	10	大学間連携事業:統計関連学会
	10~13	S2 課目講習会(社会調査協会主催・CSI 協力)
	12	Robert Gould 教授(UCLA 統計学部) よりオンデマンド教材作成の監修および助言

	19	第8回政府統計部会 定例会議
	24	社会調査士(見込み)資格/キャンディデイトの後期申請受付(～16日)
		第5回社会調査部会 定例会議
	25	調査研究コンサルティング 対応
		社会調査士(見込み)資格の後期/キャンディデイト提出申請(～10月18日)
	26	第4回 センター運営会議
		第7回統計教育部会 定例会議
		第9回政府統計部会 定例会議
	28	大学間連携事業:カリキュラム策定委員会議
	29	日本統計学会 スポーツ統計分科会
	30	日本女子大 現代キャリア研究所よりヒアリング訪問(社会調査部会)
10月	3	第3回センター連絡会議
		第10回政府統計部会 定例会議
	7	統計調査士対策セミナー
	8	CSI 統計活用セミナー:Aコース 統計学習コンテンツ
	9	CSI 統計分析セミナー:IAコース 回帰分析入門(1)
	10	第1回統計検定2・3級対策セミナー(池袋)
	11	第1回統計検定2・3級対策セミナー(新座)
		大学間連携事業:運営委員会議
	9～11	ICPSR 米国本部出張(廣瀬助教)
	12	大学間連携事業:カリキュラム策定委員会
	14	CSI 統計分析セミナー:NAコース Rコマンドの基礎(1)
	18	CSI 統計活用セミナー:Bコース 経済波及効果分析セミナーRECO
	23	CSI 統計分析セミナー:IBコース 回帰分析入門(2)
	24	第5回 センター運営会議
		統計検定試験体制にかかる打ち合わせ
		第2回統計検定2・3級対策セミナー(池袋)
	25	CSI 統計活用セミナー:Cコース 経済波及効果分析セミナーRECO
		第1回 CSI 社会調査フォーラム
		第2回統計検定2・3級対策セミナー(新座)
	30	CSI 統計分析セミナー:ICコース 因子分析入門
11月	6	オフィスアワー 対応
	7	第3回統計検定2・3級対策セミナー(池袋)
	8	第3回統計検定2・3級対策セミナー(新座)
	11	調査研究コンサルティング 対応
	12	CSI 統計活用セミナー:Dコース 統計地図 G-Census セミナー
	13	公開講演会:経営学部とCSI 共催
		CSI 統計分析セミナー:IDコース 共分散構造分析入門(1)
	14	調査研究コンサルティング 対応
		第4回統計検定2・3級対策セミナー(池袋)
	15	第4回統計検定2・3級対策セミナー(新座)
		第8回 CSI 統計研究会
	17	大学間連携事業:統計検定団体受験

	18	CSI 統計分析セミナー:NB コース R コマンドの基礎(2)
		招待講演③
	20	CSI 統計分析セミナー:ID コース 共分散構造分析入門(1)
	27	CSI 統計分析セミナー:IE コース 共分散構造分析入門(2)
		社会調査士資格:科目申請のための学部内説明会開催(社会学部)
		調査研究コンサルティング 対応
	28	第 6 回センター運営会議
		調査研究コンサルティング 対応
12 月	3	CSI 統計活用セミナー:SPSS ミクロ統計分析入門
		政府統計部会会議 松山市データ
	4	調査研究コンサルティング 対応
	5	第 4 回センター連絡会議
		調査研究コンサルティング 対応
	9	CSI 統計分析セミナー:NC コース R の基礎
	11	CSI 統計分析セミナー:IF コース R コマンドの基礎
		日本と世界の統計史:講演録画
	12	政府統計部会中間報告(松山市市役所)
	18	CSI 統計分析セミナー:IG コース R の基礎
	19	調査研究コンサルティング 対応
	20	社会調査士科目、専門社会調査士科目の科目申請提出
	26	第 3 回スポーツデータ解析コンペティション コンペティション発表審査会
2014 年 1 月	6	調査研究コンサルティング 対応
	9	調査研究コンサルティング 対応
	10	招待講演④
	16	第 7 回センター運営会議
		調査研究コンサルティング 対応
	22	調査研究コンサルティング 対応
	23	第 3 回センター委員会議
	27	政府統計部会報告書内容レビュー(松山市市役所)
	28	第 64 回統計セミナー打合せ・下見(日本統計協会)
2 月	7	調査研究コンサルティング 対応
	11~12	松山市委託事業に関わる調査出張
	18	第 8 回センター運営会議
	21	第 4 回センター委員会議
	26	第 2 回 CSI 社会調査フォーラム
	28~	社会調査士指定科目証明書申請受付(池袋・新座~3/14 迄)
3 月	2~6	米国出張・調査(大学間連携事業)
	6	第 3 回スポーツデータ解析コンペティション受賞者演会(CSI 共催)
	7~8	RUDA 事業に関わる学会出張(社会調査部会)
	10	第 6 回社会調査部会 定例会議
		ICPSR 国内利用協議会総会
	13	第 5 回センター連絡会議
	14	大学間連携事業:ワークショップ

	15	第 64 回統計セミナー開催 (CSI 共催)
	12～15	アドバンスド社会調査セミナー (社会調査協会主催・CSI 協力)
	19	RUDA に関するヒアリング応談: 国立国会図書館電子情報部
	20～21	愛媛県東温市調査出張
	26	RUDA への調査データ寄託に関する訪問打ち合わせ
	29	社会調査協会講習会委員会
	24～31	社会調査士資格申請書・変更届書提出期間 (池袋・新座～3/31 迄)

## 2. 公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績

### 1) 公開講演会

2013 年度は様々なカテゴリーのセミナーと公開講演会が行われ、幅広い層に関心を頂いた。公開講演会では日経新聞とのタイアップ広告を行い、経営学部と共催した「ビッグデータ時代のデータサイエンティスト育成と統計教育」をテーマにしたもので、経営学部の佐々木宏教授をはじめ、慶應義塾大学の森川富昭准教授、ブレインパッドの佐藤洋行ゼネラル・マネージャー、ウェブインパクトの高柳寛樹代表取締役社長に登壇いただき、パネルディスカッションなどを行った。日経新聞の掲載効果もあって、問合せなどの反響が顕著に見られた。親子、学生、社会人など幅広い層の参加があり、ビッグデータへの高い関心を感じる講演会となった。

#### ◆ 公開講演会

題 目 「ビッグデータ時代のデータサイエンティスト育成と統計教育」

講 師 佐々木 宏氏 (本学経営学部教授)

佐藤 洋行 氏 (株式会社ブレインパッド アナリティクスサービス部ゼネラル・マネージャー)

森川 富昭 氏 (慶應義塾大学 政策・メディア研究科准教授)

高柳 寛樹 氏 (株式会社ウェブインパクト代表取締役社長)

開催日 2013 年 11 月 13 日 (水)

場 所 池袋キャンパス 8 号館 8101 教室

参加人数 約 125 名

### 2) オンデマンド型講座

2013 年度は新たに 2 つのオンデマンド型講座をスタートさせた。これまでは、教室での講義開講を主としてきたが、2013 年度より以下のオンデマンド型講座を開始する運びとなった。

一つ目は、2012 年度に実施した「立教大学・日本マイクロソフト共催：連続公開講座プログラム『考える技術・伝える技術～立教型ビジネス基礎講座～』」である。本講座は E-learning コンテンツとして事務局メディアセンターが開発を行い、2013 年度よりオンデマンド型公開講座として開講した。講座内容は「考える技術と伝える技術」をテーマにビジネスを推進する上で、不可欠な分析力・論理的思考などを各講で学ぶ形式となっている。また、国際社会で通用するグローバルで活躍できるビジネス推進者としての必要なスキルを身に付けることが本講座の目標である。二つ目は、Minitab 社より大学間連携事業として 8 大学に向けて提供された E-learning コンテンツ「Quality Trainer」を使った「英語でまなぶ！オンデマンド統計学講座」である。本講座は統計理論・データ分析を英語で学ぶ、英語理解力と統計分析スキルの高度化を目的とした学習プログラムとしてオンデマンド上での講座展開をしている。2013 年 10 月より講座募集を実施したところ、申し込みから数日で募集を打ち切るほどの盛況ぶりであった。今後も、学生や社会が求める人材育成ニーズを検討しながら、講座を企画していく予定である。

### ◆オンデマンド型講座 1

題 目『考える技術・伝える技術～立教型ビジネス基礎講座～』

講 師

中川 哲（日本マイクロソフト(株) パブリックセクター統括本部 業務執行役員 文教ソリューション本部長）

西脇 資哲（日本マイクロソフト(株) エバンジェリスト）

小柳津 篤（日本マイクロソフト(株) エンタープライズ&パートナーグループエグゼクティブアドバイザー）

山口 和範（経営学部 教授）

受講者数 30名

立教型ビジネス基礎講座 セッション構成	
ビジネスの推進者	1. ビジネスの現場でいま何が起きているか？
分析力/洞察力	2. ビジネスの課題を見つけ出し解決する
論理的思考・構成力	3. アイディアをまとめてビジネスを組み立てる（パート1）
	4. アイディアをまとめてビジネスを組み立てる（パート2）
表現力・訴求力	5. 説得力のあるプレゼンでビジネスに勝つ（パート1）
	6. 説得力のあるプレゼンでビジネスに勝つ（パート2）
コミュニケーション力・交渉力	7. ビジネスをドライブする力をつける（パート1）
	8. ビジネスをドライブする力をつける（パート2）
マネジメント力/統制力	9. ビジネスに勝てるチームを作る
パネルディスカッション Q&A	10. パネルディスカッション Q&A
社会要請対応力	11. 求められるビジネスコンプライアンス

### ◆オンデマンド型講座 2

題 目『英語でまなぶ！オンデマンド統計学講座』

講 師 山口和範（経営学部 教授）

受講者数 50名

英語でまなぶ！オンデマンド講座 セッション構成	
1. 記述統計とグラフ分析	データの種類
	グラフを使ったデータ分析
	統計量を使ったデータ分析
2. 統計的推測	統計的推測の基礎
	標本分布
	正規分布
3. 仮説検定と信頼区間	検定と信頼区間
	1 サンプルのt検定
	2 サンプルの分散の検定
	2 サンプルのt検定
	対応あるt検定
	1 サンプルの比率の検定
	2 サンプルの比率の検定
	カイ二乗検定

4. 管理図	統計的工程管理
	サブグループをともなう計量値に対する管理図
	個々の観測値に対する管理図
	計数値に対する管理図
5. 工程能力	正規データに対する工程能力
	能力指標
	非正規データに対する工程能力
6. 分散分析 (ANOVA)	ANOVA の基礎
	一元配置分散分析
	二元配置分散分析
7. 相関と回帰	2 つの連続変数間の関係
	単回帰
8. 測定システム分析	測定システム分析の基礎
	繰り返し性と再現性
	ゲージ R&R の問題のグラフ分析
	変動
	ゲージ R&R の問題における ANOVA
	ゲージの線形性と偏りの問題
	属性の一致性分析
9. 実験計画	実験計画
	ブロック化と中心点
	一部実施要因計画
	応答の最適化

### 3) CSI 統計分析・活用セミナー

社会情報教育研究センターでは、統計教育の普及・統計技法の高度化を目的として以下のセミナーを開催している。近年は、幅広い分野(学部生～大学院学生～研究者)からのニーズもあり、教育・研究分野における活用のみならず、卒業後、社会で実践的に統計分析を行うスキルを身に付けることができるため、高い人気を誇っている。

#### ◆2013 年前期 CSI 統計分析セミナー (池袋・新座キャンパス開催)

～統計分析ソフト SPSS と R による統計分析～

<セミナー概要>

- ・ SPSS の基礎：データの作成・単純集計・グラフの作成
- ・クロス集計表のマスター：二重クロス表・カイ 2 乗検定・三重クロス表・SPSS での使用法
- ・相関係数をマスターする：相関係数・偏相関係数・SPSS での使用法
- ・R コマンダーの基礎(1)：度数分布表・代表値と散布度の指標
- ・R コマンダーの基礎(2)：クロス集計表・相関係数・回帰分析
- ・R の基礎：インストール方法・データの入力・ライブラリーの読み込み・基本文法



#### <IA コース>

講義内容 統計分析ソフト SPSS の基礎  
開催日 2013年5月8日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 25名

#### <IB コース>

講義内容 クロス集計表をマスターする  
開催日 2013年5月22日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 12名

#### <IC コース>

講義内容 相関係数をマスターする  
開催日 2013年6月5日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 12名

#### <ID コース>

講義内容 R コマンダーの基礎(1)  
開催日 2013年6月19日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 8名

#### <IE コース>

講義内容 R コマンダーの基礎(2)  
開催日 2013年7月3日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 1名

#### <IF コース>

講義内容 R の基礎  
開催日 2013年7月17日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8302教室  
講 師 田中 潮(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 0名(開講中止)

#### <NA コース>

講義内容 R コマンダーの基礎 (1)  
開催日 2013 年 5 月 13 日 (月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2 名

#### <NB コース>

講義内容 R コマンダーの基礎 (2)  
開催日 2013 年 6 月 10 日 (月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 1 名

#### <NC コース>

講義内容 R の基礎  
開催日 2013 年 7 月 15 日 (月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2 名

#### ◆2013 年後期 CSI 統計分析セミナー (池袋・新座キャンパス開催)

～統計分析ソフト SPSS と R による統計分析～

##### <セミナー概要>

- ・ 回帰分析入門(1)：単回帰分析・重回帰分析・SPSS/AMOS での使用方法
- ・ 回帰分析入門(2)：ダミー変数・回帰診断・SPSS/AMOS での使用方法
- ・ 因子分析入門：因子分析の概要・最尤法による因子分析・SPSS/AMOS での使用例
- ・ 共分散構造分析入門(1)：共分散構造分析とは？・AMOS での使用方法
- ・ 共分散構造分析入門(2)：共分散構造分析の発展的な話題・AMOS での使用方法
- ・ R コマンダーの基礎(1)：度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表
- ・ R コマンダーの基礎(2)：相関係数、回帰分析
- ・ R の基礎：インストール方法・データ入力・パッケージ・基本文法

#### <IA コース>

講義内容 回帰分析入門 (1)  
開催日 2013 年 10 月 9 日 (水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 20 名

#### <IB コース>

講義内容 回帰分析入門 (2)  
開催日 2013年10月23日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 10名

#### <IC コース>

講義内容 因子分析入門  
開催日 2013年10月30日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 14名

#### <ID コース>

講義内容 共分散構造分析入門 (1)  
開催日 2013年11月20日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 13名

#### <IE コース>

講義内容 共分散構造分析入門 (2)  
開催日 2013年11月27日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 6名

#### <IF コース>

講義内容 R コマンドの基礎  
開催日 2013年12月11日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 3名

#### <IG コース>

講義内容 R の基礎  
開催日 2013年12月18日(水)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2名

#### <NA コース>

講義内容 R コマンダーの基礎 (1)  
開催日 2013 年 10 月 14 日 (月)  
場 所 立教大学池袋新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 4 名

#### <NB コース>

講義内容 R コマンダーの基礎 (2)  
開催日 2013 年 11 月 18 日 (月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2 名

#### <NC コース>

講義内容 R の基礎  
開催日 2013 年 12 月 9 日 (月)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室  
講 師 田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 2 名

### ◆2013 年前期 CSI 統計活用セミナー (池袋・新座キャンパス開催)

#### <セミナー目的と概要>

本セミナーでは社会情報教育研究センターが提供する統計利活用のためのコンテンツを使って、公的統計学習、経済波及効果分析、統計地図の作成などを行う。

- ・ 立教版『G-Census』(統計 GIS) : 国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する
- ・ 『総務省統計局統計学習コンテンツ (すたなび) 』 : 公的統計データの扱い方などの基本学習が可能
- ・ 『公的統計総合学習コンテンツ(すたまる)』 : 統計学習を網羅したコンテンツ
- ・ 『将来人口推計分析(POCO)』 : 国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドの作成を行う
- ・ 『波及効果分析(RECO)』 : 東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う
- ・ 『SPSS ミクロ統計分析入門』 : SPSS を用いたミクロデータ分析を行い、匿名データを活用した分析を行う

#### <A コース>

講義内容 G-Census セミナー1  
開催日 2013 年 5 月 20 日 (月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室  
講 師 小西 純 ( (公財) 統計情報研究開発センター 研究員)  
参加人数 22 名

#### <B コース>

講義内容 G-Census セミナー2  
開催日 2013 年 5 月 27 日 (月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室  
講 師 小西 純 ( (公財) 統計情報研究開発センター 研究員)  
参加人数 19 名

<C コース>

講義内容 統計学習コンテンツ紹介  
開催日 2013年6月6日(木)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館N824教室  
講 師 倉田 知秋(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 0名(開講中止)

<D コース>

講義内容 将来人口を推計する(POCO)  
開催日 2013年6月17日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室  
講 師 倉田 知秋(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 22名

<E コース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門  
開催日 2013年6月27日(木)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館8501教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 1名

◆2013年後期 CSI 統計活用セミナー(池袋・新座キャンパス開催)

<A コース>

講義内容 統計学習コンテンツ紹介  
開催日 2013年10月8日(火)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館N823教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 0名(開講中止)

<B コース>

講義内容 経済波及効果分析(RECO)①  
開催日 2013年10月18日(金)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 0名(開講中止)

<C コース>

講義内容 経済波及効果分析(RECO)②  
開催日 2013年10月25日(金)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室  
講 師 倉田 知秋(社会情報教育研究センター 学術調査員)  
参加人数 1名

#### <D コース>

講義内容 統計地図セミナー G-Census  
開催日 2013年11月12日(火)  
場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室  
講 師 小西 純((公財)統計情報研究開発センター 研究員)  
参加人数 1名

#### <E コース>

講義内容 SPSS ミクロ統計分析入門  
開催日 2013年12月3日(火)  
場 所 立教大学新座キャンパス 8号館N823教室  
講 師 小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 1名

#### 4) 統計検定対策セミナー

##### <セミナー目的と概要>

立教大学の統計検定受験希望者に対し、統計検定対策セミナーをこれまで実施してきている。2013年11月17日に開催された立教大学団体受験を受験した学生に、受験対象のレベルに合わせた統計検定試験対策のセミナーを池袋・新座キャンパスにて各4回開催した。また、今回初めて統計調査士の受験者向けに試験対策を兼ねたガイダンスセミナーを開催した。大学間連携事業における連携大学団体受験制度との相乗効果で年々セミナー受講者が増加しており、立教大学における自律的な統計学習の提供機関としての役割を担いつつある。

##### <統計調査士対策セミナー>

開催日 2013年10月7日(月)  
場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室  
講 師 菊地 進(経済学部 教授)  
参加人数 22名

##### <第1回統計検定2・3級対策セミナー>

開催日 2013年10月10日(木)  
場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室  
講 師 2・3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 17名

開催日 2013年10月11日(金)  
場 所 立教大学新座キャンパス8号館N823教室  
講 師 2・3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)  
参加人数 5名

### <第2回統計検定2・3級対策セミナー>

開催日 2013年10月24日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室、8501教室

講 師 2級対象：山口 和範(経営学部 教授)

大川内 隆朗(プログラム・コーディネーター)

3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 18名

開催日 2013年10月25日(金)

場 所 立教大学新座キャンパス8号館N823教室

講 師 2・3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 4名

### <第3回統計検定2・3級対策セミナー>

開催日 2013年11月7日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室、8501教室

講 師 2級対象：山口 和範(経営学部 教授)

大川内 隆朗(プログラム・コーディネーター)

3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 12名

開催日 2013年11月8日(金)

場 所 立教大学新座キャンパス8号館N823教室

講 師 2・3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 6名

### <第4回統計検定2・3級対策セミナー>

開催日 2013年11月14日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室、8501教室

講 師 2級対象：山口 和範(経営学部 教授)

大川内 隆朗(プログラム・コーディネーター)

3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 14名

開催日 2013年11月15日(金)

場 所 立教大学新座キャンパス8号館N823教室

講 師 2・3級対象：金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)

参加人数 7名

## 5) CSI 統計研究会

CSI 統計研究会は、統計実務者や地域社会研究の第一人者をゲストに迎え、統計の現場で起こっている事や統計情報の活用をテーマに報告をしていただいた。参加者も学生、他大学からも非常に多くの関心が集まり、研究会も質の高い議論が繰り広げられた。今後も統計関係者の関心が高いトピックを中心に扱っていく予定である。

#### <第6回 CSI 統計研究会>

都市・地域政策をテーマとするゼミナール教育における統計・社会情報の活用

開 催 2013年7月10日(水)

場 所 立教大学 池袋キャンパス8号館 CSI 会議スペース

講 師 田島 夏与(立教大学 経済学部 准教授)

参加人数 10名

#### <第7回 CSI 統計研究会>

都道府県統計部門における新たな潮流

開 催 2013年7月26日(金)

場 所 立教大学 池袋キャンパス8号館 CSI 会議スペース

講 師 加藤 耕二(総務省統計局 統計研修所教官)

高橋 洋介(統計局統計情報システム課 統計情報企画室統計専門職)

参加人数 8名

#### <第8回 CSI 統計研究会>

政策立案成における統計～岐阜県の取り組み事例

開 催 2013年11月15日(金)

場 所 立教大学 池袋キャンパス8号館 CSI 会議スペース

講 師 清水 浩二(岐阜県統計課)

参加人数 10名

### 6) CSI 社会調査フォーラム

近年、統計的な社会調査データを用いた実証分析や統計・社会調査教育への関心が高まり、社会調査データアーカイブを通じて公開されたデータを利用した2次分析や統計教育が注目されている。こういった全体的な需要を鑑みて、CSIでは社会調査フォーラムを2013年度より開催を開始した。2013年度のCSI社会調査フォーラムでは、データアーカイブの利用方法やパーソナルネットワークの測定方法などをテーマにゲストスピーカーにお話し頂き、研究者や大学院学生の間で様々なディスカッションが交わされる機会提供を行った。

#### <第1回 CSI 社会調査フォーラム>

題 目 RUDAをはじめとする研究者向けアーカイブ紹介、公開データの検索・利用方法

開催日 2013年10月25日(金)

場 所 立教大学 池袋キャンパス8号館 8503教室

講演者 朝岡 誠(立教大学 社会情報教育研究センター 学術調査員)

#### <第2回 CSI 社会調査フォーラム>

題 目 パーソナル・ネットワークの測定と分析ーサイズ・構成・構造の検討ー

開催日 2014年2月26日(水)

場 所 立教大学 池袋キャンパス マキムホール第2会議室

講演者 石黒 格(日本女子大学 人間社会学部 准教授)



## 7) 共催・後援セミナー等

### ＜アドバンスド社会調査士セミナー＞

専門社会調査士取得（8条規定）希望者と社会調査実務向上をめざす人のためのアドバンスド社会調査セミナーの開催協力を行った。本セミナーは、専門社会調査士（正規）の標準カリキュラムH、I、Jの3科目の内容に対応しており、大学院での専門的な社会調査法の授業内容に相当する集中セミナーが実施された。

1日目 2014年3月12日(水)

2日目 2014年3月13日(木)

3日目 2014年3月14日(金)

4日目 2014年3月15日(土)

場 所 立教大学 池袋キャンパス D601 教室、8号館 8506 教室

講 師 盛山 和夫（関西学院大学）

福田 昌史（読売新聞社）

保田 時男（関西大学）

丸岡 吉人（電通）

川端 亮（大阪大学）

後藤 範章（日本大学）

古賀 正義（中央大学）

講 座 ①社会調査の企画と設計

②質的調査の有効性と分析方法を考える

③世論調査の現状と課題

④質的データの計量分析：自由回答とインタビューのコンピュータ・コーディング

⑤マルチレベル分析の考え方

⑥マルチレベル分析の実際（SPSS 実習）

⑦マーケティングリサーチ：マーケティング意志決定を支援する

社会調査（ミニ演習を含む）

⑧都市社会調査とビジュアル調査：方法と実際

### ＜高校生向け統計教育セミナー＞

2013年度の高校生向け統計教育セミナーは『統計的思考力：仮説の検証－データを活用し判断する－』をテーマに実施した。高校の数学科目の一部である『統計学』と『数学』との違いは何なのかを考えながら統計学を捉えた。統計基礎力の涵養となることをめざし、今後もセミナーを実施する予定である。

講義内容 「統計的思考力：仮説の検証－データを活用し、判断する－」

開催日 2013年7月31日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 山口 和範（経営学部 教授）

参加人数 千葉市立千葉高等学校 の生徒・引率教諭 計 17 名

## <S2 科目講習会>

専門社会調査士取得希望者のための講習会。社会調査士科目 D、E 科目に対応する。S1 科目講習会と組み合わせることで専門社会調査士取得を目指す大学院生・および実務者の専門社会調査士資格取得を支援する講習会である。例年開催協力を行っている。

1 日目 2013 年 9 月 10 日 (火)

2 日目 2013 年 9 月 11 日 (水)

3 日目 2013 年 9 月 12 日 (木)

4 日目 2013 年 9 月 13 日 (金)

開催場所 立教大学 池袋キャンパス 8 号館 8506 教室

主 催 (社) 社会調査協会

講 師 保田 時男 (関西大学)

大槻 茂実 (首都大学東京)

西村 純子 (明星大学)

三輪 哲 (東北大学)

講習会内容

- ①統計データと統計分析ソフト
- ②代表値とばらつき
- ③関連を捉える
- ④確率論の基礎
- ⑤統計的なプレゼンテーション
- ⑥統計的推測の基礎
- ⑦統計的推定の実際
- ⑧統計的検定の実際
- ⑨クロス表の検定
- ⑩相関係数の検定
- ⑪中間試験
- ⑫単回帰分析
- ⑬多変量解析の目的と意義
- ⑭重回帰分析の実際
- ⑮重回帰分析の限界と他のモデルへの拡張
- ⑯さまざまな多変量解析
- ⑰その他の多変量解析1 (分散分析)
- ⑱その他の多変量解析2 (主成分分析)
- ⑲その他の多変量解析3 (探索的因子分析)
- ⑳レポート作成実習

## <第 3 回スポーツデータ解析コンペティション コンペティションの発表審査会>

開催日 2013 年 12 月 26 日 (水)

場 所 立教大学 池袋キャンパス マキムホール M201

主 催 統計数理研究所、日本統計学会スポーツ統計分科会、日本統計学会統計教育分科会、日本統計学会統計教育委員会、立教大学社会情報教育研究センター、平成 25 年度統計数理研究所共同研究「スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会」

(研究代表者：竹内光悦)、平成 21-25 年度科学研究費・基盤研究(B)「知識基盤社会を支える統計教育の新展開ー小中高と大学・社会を繋ぐ教育 システムの研究」(研究代表者：渡辺美智子)、平成 23-26 年度科学研究費若手研究 (B) (研究代表者：竹内光悦) 『問題解決力育成を目指す統計教育の授業運営と評価の枠組み』

共 催 データスタジアム (株)

プログラム

- ①ロジスティック回帰分析を用いたボランチのパス評価～ガンバ大阪遠藤選手を基準に～
- ②Rasch モデルを用いた日本プロ野球における打者・投手の評価付モデル
- ③ゴロにおける内野守備の最適なポジション
- ④グラフ理論によるサッカーのパス解析～ペトロヴィッチサッカースカウティングレポート～
- ⑤バントの有効性
- ⑥マルコフ連鎖を利用した打順別の打者評価モデル
- ⑦J リーグ+Quality プロジェクトのためのファウル発生状況分析
- ⑧投手の“見えない”能力を探る～ノビ、キレの定量化～
- ⑨選手の特徴および調子の波を把握する為の修正 OPS とその活用例
- ⑩J リーグにおける選手とチームの攻撃力指標
- ⑪傾向スコアによる犠牲バントの効果の推定
- ⑫未対戦の打者と投手の打率予測

### <第 3 回スポーツデータ解析コンペティション受賞者講演会>

開催日 2014 年 3 月 6 日 (木)

場 所 立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館 3F 多目的ホール

主 催 一般社団法人日本統計学会、日本統計学会スポーツ統計分科会、情報・システム研究機構統計数理研究所

共 催 日本統計学会統計教育委員会、日本統計学会統計教育分科会、統計教育大学間連携ネットワーク高大連携委員会、立教大学社会情報教育研究センター、平成 25 年度統計数理研究所共同研究「スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会」(研究代表者：竹内光悦)

協賛 データスタジアム (株)

講演 1 「ボールのキレ・ノビを科学するー野球投手の球質評価ー」

講演 2 「選手の特徴を見える化する新指標の開発と、選手クラスター分析へのトライ」

講師 神事 努 (国際武道大学体育学部)、木下 陽介 (株式会社博報堂・研究開発局)

### <第 64 回統計セミナー>

題 目 『経済センサスから何がわかる』

開催日 2014 年 3 月 15 日 (土)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8201 教室

主 催 財団法人 日本統計協会

共 催 日本統計学会、統計関連学会連合、立教大学 社会情報教育研究センター

後 援 総務省統計局

講演者 江刺 英信 (総務省統計局経済統計課 調査官)

長谷川 普一 (新潟市役所 都市政策部 GIS センター主査)

平下 治 (株式会社 JPS 代表取締役)

## 8)外部機関からの依頼講演・講義

社会情報教育研究センターでは数多くの統計データを活用し、コンテンツ作成や調査分析を行っている。その結果、官公庁や企業・団体等から出張講義・講演依頼が来る機会が増加している。以下、依頼内容を記載する。そのような外部での活動をつうじて、教育・研究機関として幅広い統計データを活用・普及活動を実施していることが、国内外にて幅広く認知されている。これは、我が国の統計作成および普及に大きく寄与しているといえる。

### ◆平成 25 年度茨城県地方統計職員業務研修①

開催日 2013 年 5 月 14 日 (火) 午後 2 時～4 時  
主 催 茨城県庁  
場 所 茨城県開発公社 3 階 中会議室 3  
講演者 菊地 進 (経済学部 教授)  
テーマ 「地方自治体における政策形成と統計利用」  
対 象 茨城県統計関係職員、茨城県内市町村統計関係職員

### ◆平成 25 年度総務省統計局統計研修所中堅職員課程「地域経済と統計」講義②

開催日 2013 年 6 月 3 日 (月) 午後 2 時 35 分～5 時 10 分  
主 催 総務省統計局統計研修所  
場 所 統計研修所 1 階大会議室  
講 師 菊地 進 (経済学部 教授)  
テーマ 「地域経済と統計－政策形成と地方統計の利活用－」  
対 象 国及び地方自治体の統計関係職員

### ◆平成 25 年度総務省統計研修所特別講座『政策と統計』講義③

開催日 2013 年 11 月 18 日 (月) 午前 10 時～12 時  
主 催 総務省統計局統計研修所  
場 所 統計研修所第 2 教室  
講 師 菊地 進 (経済学部 教授)  
テーマ 「政策と統計－政策形成における統計の役割－」  
対 象 国及び地方自治体の統計関係職員

### ◆平成 26 年中小企業家同友会全国幹事会講演④

開催日 2014 年 1 月 10 日 (金) 午後 1 時 30 分～2 時 30 分  
主 催 中小企業家同友会全国協議会  
場 所 中野サンプラザ  
講 師 菊地 進 (経済学部 教授)  
テーマ 「統計からみた情勢と情勢に負けない企業づくり」  
対 象 47 都道府県中小企業家同友会理事・事務局職員

## 3.資格支援事業

### 1)社会調査士資格支援

「社会調査士」と「専門社会調査士」の 2 つの資格は、いずれも一般社団法人 社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的としている。いずれの資格も、専門知識や技法を用いて世論や市場動向・社会事象等をとらえる能力を有する

「社会調査の専門家」であることを想定しており、「社会調査士」は社会調査の基礎能力を有する専門家として、「専門社会調査士」はさらに高度な調査能力を身につけたプロの社会調査士と位置づけられている。

社会情報教育研究センターでは、社会調査協会に向けては立教大学全体として教育組織会員となり、学内に向けては資格支援事業の統括および一元化を行っている。また社会情報教育研究センター助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、それら学内各部局の科目認定申請のサポートや学生の資格取得支援を行っている。

資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科への科目認定申請のサポート事例としては、2012年度より「社会学部共通科目」を設置した社会学部に対し、改定後のカリキュラムに対応した科目認定の申請手続を遺漏なく行うべく、2013年度も当センターと学部連絡責任者との間で打ち合わせを行った。また、2013年度より新たに現代心理学部心理学科に社会調査士科目導入が行われたが、前年度に現代心理学部・新座事務部教務課・社会情報教育研究センターの三者で連携して科目設計・新規科目導入・申請書作成など一連の申請業務を進めた。さらに、経済学部に対しても過年度科目について遡及して科目認定申請を行うべく、担当教員と協議しつつ関係書類を作成し手続を進めた。これらの活動を通じて、資格対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で126科目を2013年度科目として認定を受け、また2014年度の対応科目として同じく100科目の認定申請手続を2013年12月に行った。

また、学生に対する資格取得支援活動としては、資格認定申請に有用な「指定科目証明書」の発行システムを2012年度6月より当センターに全面的に移行し運用を開始したが、2013年度も同システムを池袋・新座キャンパス両キャンパスにおいて活用している。これにより池袋キャンパス教務事務センターおよび新座キャンパス事務部教務課の業務負担が軽減し、さらに各キャンパスにおける学生の申請の利便性が向上した。また、システム導入による学生の証明書発行料金負担も軽減されている。

#### ◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度導入学部・研究科 一覧

- ・全学共通カリキュラム（オンデマンド授業：社会調査士科目 A～E 科目設置）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・観光学部 全学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科（2013年度より導入開始）
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

◇社会調査士（見込み）資格取得申請：前期申請者 44名・後期申請者 71名 合計 115名

社会調査士 資格取得申請：78名（2014年3月申請分）

専門社会調査士 資格取得申請：1名（2014年3月申請分）

（2014年4月1日現在）

\*社会調査士（見込み）・専門社会調査士キャンディデイト 申請

前期 申請期間 2013年6月3日（月）～6月19日（水）

提出期間 2013年6月4日（火）～6月21日（金）

後期 申請期間 2013年9月24日（火）～10月16日（水）

提出期間 2013年9月25日（水）～10月18日（金）

※専門社会調査士キャンディデイトは後期申請期間のみ取扱い。

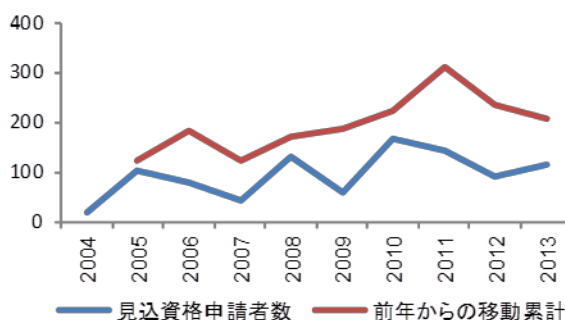
\* 社会調査士・専門社会調査士 申請

申請期間 2014年2月28日(金)～3月14日(金)

提出期間 2014年3月24日(月)～3月31日(月)

◆立教大学における社会調査士資格ならびに見込み資格申請の推移について◆

年度	見込資格申請者数	前年からの移動累計
2004	17	
2005	104	121
2006	79	183
2007	42	121
2008	130	172
2009	57	187
<b>2010</b>	<b>166</b>	<b>223</b>
<b>2011</b>	<b>144</b>	<b>310</b>
<b>2012</b>	<b>92</b>	<b>236</b>
<b>2013</b>	<b>115</b>	<b>207</b>



※2010年度よりCSIにて資格取得支援開始

立教大学における社会調査士資格の見込み申請者数は、上記表の通り増加傾向にある。また、2010年度より当センターにて申請を受け付けているが、学生間においても当センターの認知度は深まっている。当センターへの申請に関する問い合わせ・相談件数も増加している。また下記の表は、2004年度から2013年度末までの、社会調査士ならびに専門社会調査士の申請者数の推移である。この表をみても、年々申請者数は増加傾向にあるとともに、池袋・新座両キャンパスにおいても社会調査士資格を取得可能とする学部は増えており、全学部的に支援をおこなう機関の必要性は増していると考えられる。当センターにおいて学部・教務との連絡を密にとりつつ、支援体制をいっそう整えていく重要性を感じている。

学部学科別社会調査士見込申請数  
(2004年～2013年後期申請まで)

	社会学部社会学科	社会学部メディア社会学科	社会学部現代文化学科	社会学部産業関係学科	社会学部社会学科(2006年度以降入学生)	経済学部経済学科	経済学部会計ファイナンス学科	経済学部経済政策学科	経営学部経営学科	経営学部国際経営学科	コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科	観光学部交流文化学科	観光学部観光学科	現代心理学部心理学科	総計
第01回2004年12月	1		2	14											17
第02回2005年6月	29		10	50											89
第03回2005年12月	5		3	7											15
第04回2006年10月	12		5	17											34
第05回2006年12月	2		20	23											45
第06回2007年10月	7		3	8											18
第07回2007年12月	11		6	7											24
第08回2008年10月	11	4	1					4			42				62
第09回2008年12月	17	11	26						11	2	1				68
第10回2009年10月	1									1	13				15
第11回2009年12月	18		14						3		7				42
第12回2010年10月	4	4	3						1						12
第13回2010年12月		18	69		41				3	1	3	19			154
第14回2011年10月		2	17		8	1					1	15			44
第15回2011年12月	37	7	14			4		1	1	1	17	14	4		100
第16回2012年10月	15	3	19			10	2		2		8	6	1		66
第17回2012年12月	6	3	2				2		1		8	4			26
第18回2013年10月	10	2	9			3	1		1		15	3			44
第19回2013年12月	9	4	12			5		1	6		14	5	6	9	71
<b>総計</b>	<b>195</b>	<b>58</b>	<b>235</b>	<b>128</b>	<b>49</b>	<b>23</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>33</b>	<b>5</b>	<b>129</b>	<b>66</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>946</b>

2) 統計検定支援

2013年11月17日(日)に、一般財団法人統計質保証推進協会主催による、統計検定が実施された。社会情報教育研究センターは2011年度より団体受験受付から統計検定対策セミナー開催

など、統計検定受験に対し一元的な支援を行っている。統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけることができる。

2013年度も大学間連携事業の一環として、立教大学を含む連携8大学の学生・大学院生の団体受験者に対し、統計検定の成績データ分析に同意することを条件として、団体受験料の免除が実施された。（個人情報の匿名化処理を行った上で、受験データを統計検定の改善及び統計教育に関する調査データとして分析を実施）統計検定に合格すること自体が大学における統計教育の目的ではなく、その基礎の上に各学部の専門分野の知識を結びつけ、活用できるようにすることが肝要である。

実施日 2013年11月17日（日）

会場 立教大学 池袋キャンパス8号館 8201、8202 教室

### 2013年度統計検定受験者数 2013/11/17

	1級	2級	3級	4級	統計調査士	専門統計調査士	合計
受験申込者	6	100	85	4	25	2	222
実受験者	0	59	63	2	19	1	144
受験率	0%	59.0%	74.1%	50.0%	76.0%	50.0%	64.9%

## 4.教育支援事業

### 1)正課課目の開発・提供

2013年度は、全学共通カリキュラムのオンデマンド授業 「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」の運営を行った。なお、これら5科目は、社会調査士資格認定科目となっている。

#### 『社会調査入門』

担当者：金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：朝岡 誠（社会情報教育研究センター 学術調査員）

本柳 亨（教育コーチ）

授業の目標：社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。

社会調査士資格認定科目「A」に対応。

受講者数：146名

授業内容：

- 第1講 社会調査の目的
- 第2講 社会調査の諸方法
- 第3講 社会調査の歴史：欧米
- 第4講 社会調査の歴史：日本
- 第5講 調査対象の選出方法
- 第6講 量的調査法の種類と特徴
- 第7講 質問紙調査の調査プロセス（1）
- 第8講 質問紙調査の調査プロセス（2）

- 第9講 質問紙調査の調査プロセス (2)
- 第10講 質的調査法の概要と種類
- 第11講 自由面接法の種類と方法
- 第12講 自由面接法の調査プロセス (1)
- 第13講 自由面接法の調査プロセス (2)
- 第14講 観察法・ドキュメント分析の調査プロセス
- 第15講 調査倫理と社会調査の諸問題

## 『社会調査の技法』

担当者：金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)

教育コーチ：朝岡 誠 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

山口 塁 (リサーチアシスタント)

授業の目標：社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

受講者数：102名

授業内容

- 第1講 社会調査とは何か
- 第2講 社会調査の企画
- 第3講 調査方法を選ぶ
- 第4講 標本設計の方法
- 第5講 標本調査の実際
- 第6講 調査票を作る
- 第7講 質問文の作り方
- 第8講 選択肢の作り方
- 第9講 調査の実施
- 第10講 データの作成と集計・分析
- 第11講 質的調査の概説
- 第12講 フィールドワーク
- 第13講 インタビュー
- 第14講 参与観察
- 第15講 論文・報告書の作成

## 『データ分析入門』

担当者：金澤 悠介 (社会情報教育研究センター 助教)

教育コーチ：田中 潮 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

井上 公人 (リサーチアシスタント)

授業の目標：社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

受講者数：105名

授業内容

- 第1講 統計を学ぶ
- 第2講 変数の性質とデータ分析の方法
- 第3講 データを記述する (1)



- 第4講 データを記述する (2)
- 第5講 データを記述する (3)
- 第6講 データを記述する (4)
- 第7講 データを記述する (5)
- 第8講 データを記述する (6)
- 第9講 2つの変数の関連を探る (1)
- 第10講 2つの変数の関連を探る (2)
- 第11講 2つの変数の関連を探る (3)
- 第12講 2つの変数の関連を探る (4)
- 第13講 回帰分析の基礎
- 第14講 擬似相関と変数の統制
- 第15講 時系列データの分析

### 『データの科学』

担当者：金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：倉田 知秋（社会情報教育研究センター 学術調査員）

鈴木 雄大（リサーチアシスタント）

授業の目標：社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

受講者数：72名

授業内容

- 第1講 記述統計学と推測統計学
- 第2講 標本抽出 (1)
- 第3講 確率と確率分布
- 第4講 標本抽出 (2)
- 第5講 統計的推定 (1)
- 第6講 統計的推定 (2)
- 第7講 統計的推定 (3)
- 第8講 統計的検定 (1)
- 第9講 統計的検定 (2)
- 第10講 2つの平均値の差の検定
- 第11講 分散分析
- 第12講 カイ2乗検定
- 第13講 3重クロス表の分析
- 第14講 相関と回帰
- 第15講 因果への挑戦

### 『多変量解析入門』

担当者：金澤 悠介（社会情報教育研究センター 助教）

教育コーチ：田中 潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）

授業の目標：データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

受講者数：43名

授業内容

- 第1講 多変量解析とは何か?
- 第2講 記述統計学と推測統計学の復習
- 第3講 相関係数と偏相関係数
- 第4講 重回帰分析 (1)
- 第5講 重回帰分析 (2)
- 第6講 重回帰分析 (3)
- 第7講 二項ロジスティック回帰分析
- 第8講 二元配置分散分析
- 第9講 三重クロス集計表の分析
- 第10講 因子分析 (1)
- 第11講 因子分析 (2)
- 第12講 主成分分析
- 第13講 クラスタ分析
- 第14講 構造方程式モデリング
- 第15講 多変量解析のまとめ

## 2) 統計学習コンテンツ・ソフトウェア

大学教育における統計学習の普及・促進を目的として、2013年度もコンテンツ作成およびソフトウェアのカスタマイズを実施した。また、2012年度より統計検定対策セミナーと合わせて、自学自習用コンテンツとして「統計検定受験対策コンテンツ」の公開を開始した。2013年度からは新たに「統計調査士対策コンテンツ」の公開を全国の大学に先駆けて実施した。統計調査士コンテンツは当センターが全国初で制作を行ったものであり、コンテンツ公開における反響は予想外に大きく、各種団体より個別に問い合わせを頂いた。

また、大学間連携事業の一環として、立教大学は統計教育 JAVA アプレット・統計教育ソフトウェアの日本語化を実施した。

2013年度に制作した統計調査士コンテンツに更なる改良を加えると共に、引き続き2014年度も統計学習コンテンツ開発を行う予定である。

### ◆ 2012年度以前に作成した統計学習コンテンツ

[https://csi.rikkyo.ac.jp/statistical\\_learning/SitePages/Home.aspx](https://csi.rikkyo.ac.jp/statistical_learning/SitePages/Home.aspx)

<2013年度作成：統計学習コンテンツ・ソフトウェア一覧>

### ◆ 統計調査士対策コンテンツ

[https://csi.rikkyo.ac.jp/social\\_research\\_resource/統計調査士試験対策コンテンツ.pdf](https://csi.rikkyo.ac.jp/social_research_resource/統計調査士試験対策コンテンツ.pdf)

### ◆ 統計教育 JAVA アプレットの日本語化

統計教育向けに開発された、ブラウザ上で動作する11個の JAVA アプレット教材を日本語に翻訳した。すでに JINSE の e-learning システム上にアップロードしており、登録されているメンバーであれば利用可能。2014年5月以降に CSIWEB サイトより公開を予定している。

#### ◆ 統計教育ソフトウェア「Statistical Lab」の日本語化

ドイツ・ベルリン自由大学で開発されたソフトウェア「Statistical Lab（オリジナルは独・英）」について、株式会社 SRA と協力開発で日本語化作業ならびにインストーラの作成を実施した。メニューやダイアログ等のインターフェース部分の日本語化が完了した。ソフトウェアのダウンロードについても 2014 年度内に CSIWEB サイトより実施する予定である。

### 3) 大学間連携共同教育推進事業

#### ◆ 統計教育大学間連携ネットワークの概要

統計教育大学間連携ネットワーク（以下連携 GP と略称）は、「文部科学省平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業」に採択されたものである。「課題解決型人材育成のための標準的なカリキュラムコンテンツと教授法を整備し、さらに統計関連学会及び業界団体等の外部団体を加えた評価委員会による教育効果評価体制を構築することによって、統計教育の質保証制度を確立する」（連携 GP ホームページより引用）ために設立された。

2014 年 3 月現在、青山学院大学が代表校となり、8 大学（東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学）と 6 学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会と日本分類学会）、および 8 団体（大学入試センター、日本アクチュアリー会、日本科学技術連盟、日本銀行、日本経済団体連合会、日本製薬工業協会、日本統計協会と日本マーケティング・リサーチ協会）が中核となる事業を展開している。

採択の期間は、H24 年度より 5 か年が計画されており、本取組では、社会で必要とされる課題解決力を持つ人材を育成するために、大学における統計教育の標準的なカリキュラム体系を策定し、その体系に基づく標準的な達成度評価制度を整備して、統計教育の質保証を行う。そして連携ネットワークによる認証に基づく共通単位互換制度を設ける。いくつかの連携大学では、連携ネットワークの資源を活用することにより、統計学に関する学部及び大学院レベルの副プログラムや副専攻制度を導入する。連携ネットワークには教材や評価法に関する教育資源を蓄積し、本取組の終了後には、連携校のみならず広く全国の大学に資源を提供することにより、多くの大学で、社会が真に必要な統計教育を実施することが可能になる。（連携 GP ホームページより引用）

#### ◆ 統計教育大学間連携ネットワーク委員会組織について

上記の法人および団体により構成されている連携 GP は、「運営委員会」、「カリキュラム策定委員会」、「質保証委員会」、「外部評価委員会」、「高大連携委員会」、「アドバイザリーボード」（海外研究者により構成されたアドバイス提供組織）、「システム開発ワーキンググループ」と、「FD 活動ワーキンググループ」を事業運営組織としている。各委員会では、個別の委員長が任命され、各委員長主導のもと、事業が展開されている。各委員会の活動報告は、代表校の青山学院大学で開催される「運営委員会」（委員長：美添泰人）において、各委員長がおこなっている。なお先述の「FD」とは、ファカルティ・ディベロップメント＝大学教員の教育能力を高めるための手段と方法のことを指す。

#### ◆ 統計教育大学間連携ネットワークにおける立教大学社会情報教育研究センターの活動報告

立教大学も連携 GP の参加校であり、主に運営委員会、カリキュラム策定委員会、アドバイザリーボード、およびシステム開発ワーキンググループに関連する事業を、本学社会情報教育研究センター・統計教育部会および政府統計部会メンバーが担当してきた。

統計教育部門リーダー：山口和範（経営学部 教授）が主導となり、金澤悠介（社会情報教育研究センター 助教）、小野寺剛（社会情報教育研究センター 助教）、田中潮（社会情報教育研究センター 学術調査員）と大川内隆朗（社会情報教育研究センター プログラム・コーディネーター）が事業運営をおこなってきた。

2013 年度も、国内外から研究者を招聘したシンポジウム、講演会の開催や、統計教育や研究にかかわるワークショップを積極的に運営してきた。

各メンバーの活動概要は以下のとおりである。まず金澤助教は、連携 GP 内部に設置された「カリキュラム策定委員会」（質保証制度を確立するための日本の統計教育水準を策定する事業を展開）統計教育のための標準カリキュラム作成のための議論を行うとともに、教材用の社会科学系データを収集した。

小野寺助教は連携 GP 内部に設置された「質保障委員会」（質保証委員会のミッションとして平成 22 年 8 月に公表された「統計学分野の教育課程編成上の参照基準」の改訂作業を行う）の委員として参加した。

田中学術調査員は、立教大学で開催されたシンポジウム、講演会、ワークショップの概要をまとめる作業をおこなってきた。

大川内隆朗（社会情報教育研究センター プログラム・コーディネーター）は、立教大学で開催されたシンポジウム、講演会、ワークショップの運営に加え、ビデオ撮影・e-learning 化作業なども行ってきた。JINSE の運営委員会や外部評価委員会にも陪席・書記として同席し議事録を作成し、カリキュラム策定委員会の委員として、統計教育の体系化を行うための検討と作業を行った。また中国とアメリカへの海外視察で統計教育と e-learning に関する実施調査を行い、報告書を作成した。

このように 2013 年度の立教大学社会情報教育研究センターは、国内統計教育水準の策定に必要な多くの情報を、シンポジウム・講演会・ワークショップ・調査・報告書執筆をつうじて収集・公開してきた。以上の理由から立教大学は、統計教育大学間連携ネットワークのカリキュラム策定事業に大きな貢献をおこなってきたものと評価できる。

#### ◆ 今後の課題について

今後の連携 GP の主要課題として、具体的に国内の統計教育水準を向上させるという事業をおこない、国民に認知してもらうことが挙げられる。こうした現状のもと立教大学社会情報教育研究センターは、2013 年度の活動で得てきた国内外の研究教育に従事するひとびとのネットワークと、豊富な情報を駆使しながら、カリキュラム策定に直結する成果を上げる必要がある。とりわけ統計教育コンテンツの作成と、外部への積極的な情報提供が求められると言えよう。

来年度は下記の 2 点に関する教育コンテンツを開発し、JINSE の e-learning システム上にアップロードし公開を行う予定である。

##### ① StatisticalLab を利用したコンテンツ

本年度に日本語化を行った統計教育用ソフトウェア「Statistical Lab」を利用したコンテンツを作成する。

##### ② カリキュラム策定委員会のコンテンツ

本年度に体系化を行った各項目に対応するデータを収集し、その一部に対する授業コンテンツを作成する。

#### ◆ 参照資料

統計教育大学間連携ネットワーク HP <http://www.jinse.jp/>

#### ◆ 講演ビデオ録画

<日本と世界の統計史>

テーマ「第 1 回目 日本における統計（制度）のはじまり」

開催日 2013 年 7 月 3 日（水）

場 所 立教大学 池袋キャンパス マキムホール 10 階 第 1 会議室

講演者 島村 敏夫（元統計局長）

テーマ「第 2 回目 我が国における統計学の導入と統計組織の変遷」

開催日 2013 年 7 月 24 日（水）

場 所 立教大学 池袋キャンパス 13 号館 会議室

講演者 島村 敏夫（元統計局長）

テーマ「第3回目 我が国における統計の発展について」  
開催日 2013年12月11日(水)  
場 所 立教大学 池袋キャンパス マキムホール10階 第1会議室  
講演者 島村 敏夫(元統計局長)

◆ 大学間連携事業関連講演会

社会情報教育研究センター共催として米国における統計教育の改革を推進している専門家を招聘して以下の講演会を開催した。

<統計教育大学間連携ネットワーク 公開FD講演会>

テーマ「次世代統計家人材育成に向けての統計研修・e-learningに関する国際動向」  
開催日 2013年6月12日(水)  
場 所 立教大学 池袋キャンパス マキムホール10階 第1・第2会議室  
主 催 統計教育大学間連携ネットワーク  
共 催 立教大学 社会情報教育研究センター

講演者・タイトル

米国 MINITAB 社による統計教育 e-learning システムの概要と実績  
株式会社 構造計画研究所 社会デザイン・マーケティング部 Minitab 担当  
廣瀬 健康  
"Goals and challenges in capacity building of statistical experts  
- based on UNSIAP's experience"  
United Nations Statistical Institute for Asia & the Pacific (SIAP) Director  
Margarita F Guerrero, Ph D

## 5.研究支援事業

社会情報教育研究センターでは、研究支援事業として ICT を活用した研究基盤の提供や調査研究コンサルティングといった研究支援を実施している。また、近年は地方自治体・企業への調査分析請負など学内にとどまらず、活動の幅を広げている。

### 1)調査分析協力

- ①依頼元 愛媛県東温市役所・東温市長  
目 的 『東温市中小企業等現状把握事業所実態調査』詳細分析  
調査主体 政府統計部会 菊地 進(経済学部 教授)
- ②依頼元 愛媛県松山市役所・松山市長  
目 的 『松山市中小企業等現状把握事業所実態調査』詳細分析  
調査主体 政府統計部会 菊地 進(経済学部 教授)

### 2)調査研究コンサルティング

立教大学の大学院生や教職員を対象に、CSIは調査研究に関するコンサルティングを提供している。コンサルティング対応可能な相談内容は、社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計的分析に関する相談である。

これらのコンサルティングの多くは一回にとどまらず、その後の調査経緯も含めて複数回の

コンサルティング対応を行っている。また、どの研究分野においてもデータ分析は必要不可欠であることから引き続き相談に来るケースが多い。このような統計分析に関する相談窓口が設置されたことは、研究の質向上に多大な影響を及ぼし、本学研究者における研究リテラシーの向上に繋がる。2013年度は調査研究コンサルティング開始から4年目を迎えたことを機に、相談内容の分析と精査を実施した。その結果、CSIが相談を行うべきでない相談については、別途相談や担当教員からの案内を行うこととした。そのため、前年より相談数は減少したが、より適切なコンサルティング相談実施体制の構築に繋がったと言える。以下、コンサルティング相談件数詳細を掲載する。

### 2013年度社会情報教育研究センター コンサルティング相談件数

依頼先	個人による依頼	部署からの依頼	総計
ビジネスデザイン研究科	1		1
経済学研究科	1		1
経営学研究科	3		3
社会学研究科	1		1
21世紀社会デザイン研究科	1		1
全学共通カリキュラム	3		3
社会学部	1		1
経済学部	1		1
法学部	5		5
理学部	1		1
異文化コミュニケーション学部	1		1
グローバル教育センター事務局	1		1
メディアセンター	1		1
総計	21		21

### 社会情報教育研究センター コンサルティング相談件数推移

2010年	11件
2011年	31件
2012年	37件
2013年	21件

### 3)社会調査データアーカイブ (RUDA)

名称 立教大学社会調査データアーカイブ  
Rikkyo University Data Archive (RUDA)  
URL <https://ruda.rikkyo.ac.jp/>  
一般公開日 : 2011年4月1日

利用条件： 大学・研究機関に所属する研究者、および本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生がユーザー登録のうえ各データセットの利用申請を行うことができる。ただし、本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生の利用申請については、大学・研究機関に所属する研究者1名の承認を必要とする。利用目的は、社会調査データを利用した二次的分析といった研究目的、および授業での教育利用を前提とする。

立教大学社会調査データアーカイブ (RUDA) は、社会調査 (統計的調査) データを収集・整備し、研究・教育目的の二次分析のために提供を行う。社会調査 (統計的調査) データを、ひろく収集・整理し、長期にわたり保管し、社会調査データを、ひろく研究目的や教育目的の二次分析のために提供する。特徴としては、学術研究の調査データを重点的に収集し、地域調査のデータを充実させていく。また、あらゆる社会科学的な調査データを幅広く扱う。そして社会科学の個人研究者や研究者グループによる学術研究調査データの蓄積にとくに力を入れていく。全国調査だけではなく地域調査データの蓄積の充実を計る。2014年3月に広報活動促進のために英語版リーフレットを印刷した。

<公開データセット：39 (2014年2月現在) >

公開日	調査名
2014年2月17日	第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査
2014年2月17日	地域と生活に関する武蔵野市民調査
2013年9月20日	新座市民の地域生活に関する調査
2013年8月8日	多様化する暮らしと社会に関する調査 (GLOCON2010)
2013年7月5日	職業のイメージに関する調査
2013年6月18日	職業に関する意識と社会的ネットワークについての調査
2013年2月15日	地域の生活課題と住民力に関する調査 '09
2013年1月21日	社会意識に関する仙北地域住民調査
2012年12月11日	世田谷区の高齢者の生活実態調査
2012年11月13日	退職調査
2012年10月2日	暮らしと仕事についての東京住民調査 (TGSS2010)
2012年9月18日	生活と防災についての市民意識調査
2012年6月12日	暮らしと仕事についての豊島区民の意識
2012年3月16日	大学生のジェンダーと子育て意識・行動に関する調査
2012年2月28日	女性の就業とサポートネットワークに関する調査
2012年2月14日	多様化する暮らしと社会に関する調査 (GLOCON2007)
2012年1月20日	住みよいまちづくりと地域の国際化についてのアンケート
2011年6月28日	高校管理職者の教育と職業意識に関する全国調査
2011年6月24日	養護教諭の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年6月23日	教師の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年4月1日	社会意識に関する仙台市民調査
2011年4月1日	社会意識に関する仙台市民調査
2011年4月1日	生活環境についての新座市民調査
2011年4月1日	生活と環境に関する仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する東京住民調査
2010年10月1日	暮らしと仕事に関する仙台市民調査
2010年10月1日	暮らしと教育についての仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する宮城県民調査
2010年10月1日	教育と友人関係に関する調査
2010年10月1日	岩手県 暮らしと人間関係に関するアンケート

2010年10月1日	パーソナルネットワークに関する地域間・都市間比較調査
2010年10月1日	都市特性と子育て支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	2007 GMFS - 10 City Survey "Quality of Life Survey"
2010年10月1日	都市生活と生活意識に関するアンケート調査 (名古屋2地点調査)
2010年10月1日	都市居住と親族・友人関係に関する調査 (名古屋4地点調査)
2010年10月1日	都市生活と家族に関する意識調査
2010年10月1日	名古屋都市圏調査
2010年10月1日	東京版総合社会調査 「高齢・少子社会における都市居住と家族・親族関係に関する調査」

#### 4) 対外連携活動

##### 1) 社会調査協会

[4. 資格支援事業] の [1] 社会調査士資格支援] で述べた社会調査士・専門社会調査士の2つの資格を認定する一般社団法人 社会調査協会と連携し、同協会が実施する講習事業への開催協力を行っている。具体的には、専門社会調査士(正規)の資格取得をめざす大学院生向け講習会(S科目講習会)、および実務者向け講習会(アドバンスド・セミナー)等である。2013年度には、S2科目講習会(2013年8月開催)、および実務者向けアドバンスド・セミナー(2014年3月開催)への協力を行った。これらの詳細は[2. 公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績]の[6] 共催・後援セミナー]において掲載している。

##### 2) ICPSR (本部および国内利用協議会)

ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research: 政治・社会調査のための大学間コンソーシアム, 本部: ミシガン大学) は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブでもある。立教大学は、国内利用協議会(ハブ機関: 東京大学)を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターは、この ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報を担当するとともに、ICPSR 本部が実施するサマー・プログラム(セミナー)、さらには ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報も行っている。

特に、ICPSR 本部のサマー・プログラムについては、2012年度に参加した立教大学大学院経営学研究科の大学院学生への体験インタビューを実施し、2013年度から web ページにて公開している。同プログラムについては日本語で紹介された情報がほとんど存在しないため、参加を検討する学内・学外者に参照されている。

また、ICPSR 本部(ミシガン大学)において隔年で行われる Official Representative Meeting (連絡責任者会議)に、2013年度の国内利用協議会派遣メンバーとして廣瀬毅士助教が選任され、10月開催の OR Meeting に出席を行った。後期授業期間後に修了判定を行い、講座修了者に対し、「修了証」を発行する。

#### 6. 出版物

- RUDAリーフレット英語版  
2014年3月25日 3000部作成
- 社会情報教育研究センター大学院学生向けパンフレット  
2014年3月31日 1000部作成

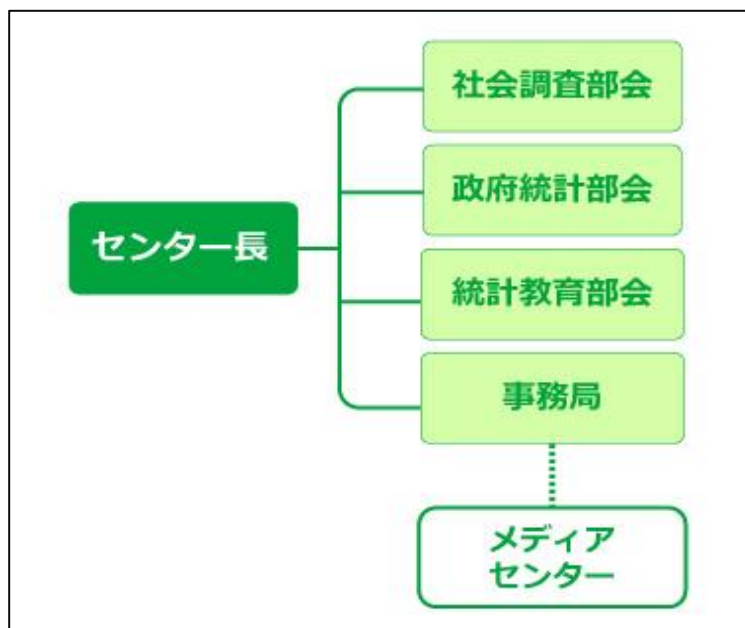


## 7. 人事

- ・嘱任（2013年4月1日） プログラム・コーディネーター 大川内 隆朗
- ・嘱任（2013年4月1日） 学術調査員 朝岡 誠
- ・嘱任（2013年4月1日） 助手 園 広美
- ・退職（2014年3月31日） 助教 金澤 悠介
- ・退職（2014年3月31日） 学術調査員 田中 潮
- ・退職（2014年3月31日） 学術調査員 朝岡 誠

## 8. 組織図

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



## 9. メンバー一覧および各種委員会・部会等

### (1) メンバー一覧

センター長	堀 耕治(現代心理学部 教授)
政府統計部会リーダー	菊地 進(経済学部 教授)
社会調査部会リーダー	高木 恒一(社会学部 教授)
統計教育部会リーダー	山口 和範(経営学部 教授)
センター員	間々田 孝夫(社会学部 教授)
	岩崎 俊夫(経済学部 教授)
	岩間 暁子(社会学部 教授)
	松本 康(社会学部 教授)
	小野寺 剛(社会情報教育研究センター 助教)
	廣瀬 毅士(社会情報教育研究センター 助教)
	金澤 悠介(社会情報教育研究センター 助教)
学術調査員	倉田 知秋
	朝岡 誠

田中 潮  
プログラム・コーディネーター  
大川内 隆朗

社会情報教育研究センター事務局

毛利 立夫(メディアセンター 課長)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
饒村良司(メディアセンター 職員)  
服部 好美(助手)  
園 広美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(2) センター委員会

堀 耕治(現代心理学部 教授)  
間々田 孝夫(社会学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
高木 恒一(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
岩間 暁子(社会学部 教授)  
坂田 周一(コミュニティ福祉学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
平山 孝人(理学部 教授・メディアセンター長)  
毛利 立夫(メディアセンター 課長)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
饒村良司(メディアセンター 職員)  
服部 好美(助手)  
園 広美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(3) センター運営会議

堀 耕治(現代心理学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
高木 恒一(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
毛利 立夫(メディアセンター 課長)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
饒村良司(メディアセンター 職員)  
服部 好美(助手)  
園 広美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(4) センター連絡会議

堀 耕治(現代心理学部 教授)

間々田 孝夫(社会学部 教授)  
菊地 進(経済学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
山口 和範(経営学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
岩間 暁子(社会学部 教授)  
坂田 周一(コミュニティ福祉学部 教授)  
小野寺 剛(助教)  
廣瀬 毅士(助教)  
金澤 悠介(助教)  
倉田 知秋(学術調査員)  
朝岡 誠(学術調査員)  
田中 潮(学術調査員)  
朝岡 誠(学術調査員)  
大川内 隆朗(プログラム・コーディネーター)  
毛利 立夫(メディアセンター 課長)  
根岸 千佳(メディアセンター 職員)  
饒村良司(メディアセンター 職員)  
服部 好美(助手)  
園 広美(助手)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(5) 政府統計部会定例会議

菊地 進(経済学部 教授)  
岩崎 俊夫(経済学部 教授)  
小野寺 剛(助教)  
倉田 知秋(学術調査員)  
鈴木雄大(リサーチ・アシスタント)  
荒井 美智江(メディアセンター・業務委託)

(6) 社会調査部会定例会議

高木 恒一(社会学部 教授)  
松本 康(社会学部 教授)  
岩間 暁子(社会学部 教授)  
廣瀬 毅士(助教)  
朝岡 誠(学術調査員)

(7) 統計教育部会定例会議

山口 和範(経営学部 教授)  
金澤 悠介(助教)  
田中 潮(学術調査員)  
大川内 隆朗(プログラム・コーディネーター)

(8)大学間連携共同教育推進事業

山口 和範 (経営学部 教授)

金澤 悠介 (助教)

小野寺 剛 (助教)

田中 潮 (学術調査員)

大川内 隆朗 (プログラム・コーディネーター)

以上